

例 言

1. 掲載資料について

- (1) 『平城京出土陶硯集成Ⅱ－平城京・寺院－』（奈良文化財研究所史料第80冊）として公刊するのは、2005年度までに奈良文化財研究所がおこなった平城宮を除く平城京および寺院の発掘調査で出土した全ての陶硯である。ただし、平城京域外にあたる奈良山（平城ニュータウン）と法隆寺についても、平城京周辺の調査として掲載した。
- (2) 本書で扱った資料は、平城京371点、寺院187点、合計558点である。同一個体の可能性が高いが、接合しないものは、原則として別個体として扱ったが、実測図は合成したものもある。
- (3) 原則として蹄脚円面硯や圈足円面硯などの定形硯および既刊の報告で陶硯である可能性が指摘されたものを対象とし、転用硯は除外したが「猿面硯」については掲載した。

2. 陶硯の種類について

- (1) 陶硯の種類については、基本的に下記の文献を参考にし、付図に示す名称を適用した。それら以外は特殊硯として一括した。なお、既報告や先行研究での細分を括弧内に記したのものもある。蹄脚円面硯は製作技法によるA・B、圈足円面硯は硯面の形状によるa・b・cに細分した。

奈良国立文化財研究所 1976「陶硯」『平城宮発掘調査報告Ⅶ』

榑崎彰一 1982「日本古代の陶硯-とくに分類について-」『考古学論考 小林行雄博士古稀記念論文集』

山中敏史 1983『埋蔵文化財ニュース41 陶硯関係文献目録』

神野恵・川越俊一 2003「平城京出土の陶硯」『古代の陶硯をめぐる諸問題』 奈良文化財研究所

3. 資料の掲載順について

- (1) 資料は平城京、寺院の順に配し、遺物番号は平城京が1～300番代、寺院が400～500番代とする。平城京は次数順に、寺院は寺院ごとに並べた後、次数順に配した。次数内の順は、おおむね蹄脚円面硯、圈足円面硯、その他である。

4. 本書の作成について

- (1) 資料の整理は都城発掘調査部長 川越俊一の指導のもと、考古第二研究室が担当し、西口壽生、玉田芳英、高橋克壽、神野恵、森川実、小田裕樹が携わった。資料整理および図版の作成には今津朱美、岡本真実、福田清美、丸山美和が協力した。
- (2) 第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ章の執筆および第Ⅳ章の作成は、川越、西口、森川の協力のもと神野が担当した。
- (3) 本書に掲載した写真は奈良文化財研究所の牛嶋茂、中村一郎、鎌倉綾および西大寺フォト杉本和樹の撮影による。
- (4) 本書の編集は、都城発掘調査部長 川越俊一の指導のもと、考古第二研究室の神野が担当した。